

第 73 回
関西社会学会大会
プログラム

第 1 日 2022 年 5 月 28 日 (土)

第 2 日 2022 年 5 月 29 日 (日)

共催校 (開催校)

関西国際大学
〈オンライン開催〉

オンライン大会開催のガイドライン（4月28日）

（1）概要

- 本大会は、2022年5月28日（土曜日）～5月29日（日曜日）に開催します。大会運営は、研究活動委員会と共催校（開催校）大会実行委員会が協力して取り組みます。共催校（開催校）は関西国際大学です。大会実行委員長の清水美知子先生をはじめ、社会学部の皆様にご協力いただきます。
- 現在、オンライン大会特設ページを準備中です。
- 本大会に参加できるのは大会参加費を納入した会員および非会員です。
- 本大会はウェブ会議システム Zoom を活用して開催します。
- 参加登録された方は、オンライン開催中の画面の録画・録音・スクリーンショット撮影をおこなわないことを承諾したものとみなします。
- 一般研究報告（I・II）、「自著を語る～MY FIRST BOOK～」等の部会は、オンライン会議室（Zoom）でおこないます。発表者はスライドやレジュメなどの資料を画面共有し、発表をおこないます。その後、参加者とチャットや音声で質疑応答をおこないます。
- ログイン情報や Zoom 部会のアクセス情報を他の方に伝えることは、拡散による不正参加や「あらし」などが起きることを防ぐために、決してなさないでください。
- オンライン大会中、通信環境や通信機器等に不具合等が生じてても十分なサポートができない可能性があります。あらかじめご容赦ください。オンライン発表に際して万一トラブル等が生じた場合も、学会はその責任を負いません。
- 報告者・司会者向けに詳しいマニュアルを作成し、後日お届けします。
- このガイドラインは2022年4月28日段階のものです。状況等により一部内容が変更されることがあります。変更がある場合は学会ホームページおよびメールで周知します。

（2）参加者（聴講者）のガイドライン

- 第73回大会では、すべての参加者が事前に参加登録と参加費の支払いをする必要があります。
- 大会参加登録は下記の大会参加申込ページからおこなってください。
<https://ksa2022.award-con.com>
- 大会参加費は2000円（会員・非会員共通）です。支払はクレジットカード／銀行振込を選ぶことができます。5月25日（水曜日）まではどちらの方法も選択できます。5月26日（木曜日）以降はクレジットカード支払いのみとなります。
- 銀行振込の場合は、事務局が入金を確認した後に正式登録がなされるため、手続き完了まで少し時間がかかります。クレジットカード支払いの場合は、オンライン上の手続きのみで登録が完了します。
- 銀行振込の場合は5月25日（水曜日）までに入金してください。参加者のクレジットカードでの支払いは大会当日まで可能ですが、報告者は大会前日までに支払いを済ませてください。
- 銀行振込の口座：ゆうちょ銀行
【他行からゆうちょ銀行に振り込む場合】ゆうちょ銀行 四〇八（読み：ヨンゼロハチ）支店
支店コード：408 普通預金 口座番号：8012280 口座名義：カンサイシャカイガツカイ
【ゆうちょ銀行から振り込む場合】四〇八（読み：ヨンゼロハチ）店
振込用の記号-番号：14040-80122801 普通預金 口座名義：カンサイシャカイガツカイ
- 参加申込方法と参加ガイドラインの詳細は、学会ホームページおよび会員一斉メールでアナウンスします。

- 領収書は大会特設サイトから PDF ファイルでダウンロードできます。大会特設ページは当学会がブランドコンセプト社に委託し構築します。クレジットカード支払いの場合、大会参加費はいったんブランドコンセプト社に集約されますが、集計後、当学会に払い戻されます。クレジットカード支払の場合、領収書にブランドコンセプト社の記載が入りますが、大会参加費の支払い先は関西社会学会です。
- 利用する端末に事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。Zoom のアカウント作成は不要です。

【参考】 Zoom 公式サイト <https://zoom.us/>

ヘルプセンター <https://support.zoom.us/hc/ja>

ミーティングテストに参加 <https://zoom.us/test>

- 部会（一般研究報告 I・II / 自著を語る）、共催校特別企画、総会、招待講演、シンポジウムは、開始時刻の 10 分前から参加者の Zoom 会議室への「入室」を開始する予定です。
- Zoom による部会に参加される場合、マイクは必ず「ミュート」にしてください。また、名前はフルネーム（所属先）で表記ください。
「名前の変更」をする方法
 - ①画面下のメニューバーの「参加者」をクリック
 - ②自分の名前上にカーソルを動かして「詳細」をクリック
 - ③「名前の変更」を選択
 - ④「氏名（所属大学）」などの表記に変更
- Zoom 部会の質疑応答は、手を挙げる機能、チャット、音声でおこないます。具体的方法については司会者の指示に従ってください。

(3) Zoom による報告者のガイドライン

- 大会当日は、できるかぎり静かでネットワークが安定している環境でご参加ください。当日使用しないアプリは終了しておくことを推奨します。
- 部会には司会者、管理・モニター担当者が配置されます。司会者は部会進行を担当します。管理・モニター担当者は、Zoom を管理しつつ部会を見守り、トラブルがあったときに対応します。
- 報告者（発表者）は Zoom の「画面共有」機能を使って資料を提示し、報告をおこないます。報告時間は 25 分、質疑応答は 5 分です。
- 報告者が当日配布したい資料がある場合は、5 月 26 日（木曜日）までに資料を研究活動委員会に送付してください。期日以降に作成された資料をオンラインストレージに各自でアップロードすることも可能です。また、当日の部会中に Zoom のチャット機能を使って資料を共有することも可能です。資料に関するマニュアルは後日メールにてお届けします。
- 部会開始時刻の 30 分前（1 日目午後は 12 時 30 分、2 日目午前 9 時）から、司会者、報告者、管理・モニター担当者は事前打ち合わせをおこないます。打ち合わせは部会開始の 10 分前までに終了します。
- 大会当日は、万一の場合に連絡が取れるように、携帯電話をお手元にご用意いただくようお願いいたします。緊急時の連絡方法は後日お知らせします。

(4) オンライン発表における著作権について

- オンラインの発表における報告資料の著作権の扱いには十分ご注意ください。以下のサイトに関連情報がありますので、ご参照ください。

「オンライン授業・オンライン学会における著作物の利用について」（澁川幸加）

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/04/18/015830>

「日本文化人類学会 オンライン学会発表におけるコンテンツガイドライン」

<https://jasca54.jimdofree.com/zoom%E5%88%A9%E7%94%A8%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E7%99%BA%E8%A1%A8%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%84%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3/>

(5) 報告要旨集について

- 報告要旨集は、大会特設ページから pdf データをダウンロードしてご覧ください。
- 今年度は、紙媒体の要旨集の配布はおこないませんが、冊子を希望される方は5月26日（木曜日）までに研究活動委員会にご連絡いただければ、有料（1冊1000円：送料込）にて作成し、後日郵送します。

* 報告要旨集（有料冊子）の郵送を希望される方

送付先・名前を明記のうえ、研究活動委員会までメールにてお申し込みください。

メールアドレス： 2022kansya 〈アットマーク〉 gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

(6) 緊急時の連絡について

- 大会の直前に病気や事故等やむを得ない事情で、発表をキャンセルする場合は、以下の研究活動委員会宛のアドレスにメールするか、あるいは、報告者・司会者向けに別途お知らせする緊急連絡用電話番号に連絡してください。 メールアドレス： 2022kansya 〈アットマーク〉 gmail.com

（メールを送る場合は、アットマークを@にしてください）

■謝辞

「オンライン大会開催のガイドライン」の作成にさいして、すでに開催された学会大会のウェブサイトや資料などを参考にさせていただきました。記して感謝いたします。

「学会全国大会のオンラインでの試行開催の運用メモ」（日本教育工学会 2020 年度春季大会実行委員会（信州大学）） <https://cril-shinshu-u.info/archives/1473>

「オンライン学会向け Zoom マニュアルの公開」（澁川幸加）

<https://redbuller.hatenablog.com/entry/2020/03/28/022605>

「日本文化人類学会第 54 回研究大会オンライン開催ポータル」

<https://jasca54.jimdofree.com/>

「日本社会学理論学会第 15 回大会参加者マニュアル」

<http://sst-j.com/?p=636>

「第 93 回日本社会学会大会 報告者向けマニュアル・一般参加者へのご案内」

<https://jss-sociology.org/other/20200930post-10889/>

第1日 5月28日(土)

研究報告 I 5月28日 土曜日午後 13:00~15:30

1. 文化・知識

司会：増田のぞみ（甲南女子大学）

1. フィンランドのナショナリズム研究者アイラ・ケミライネン
—「参入」をめぐるディレンマ— 竹内里欧 京都大学
2. 二次創作における文化実践の可能性
—著作権をめぐる相互作用から— 河原優子 京都大学
3. 圏層視角から見る「飯圏化」と「反飯圏化」をめぐる闘争
—Esports のファンを例として— 孫嘉悦 京都大学
4. 国際アーティスト集団 Fluxus の拡散過程
—メールアート作品データのネットワーク分析からの知見— 金光淳 京都産業大学

2. コミュニケーション・情報

司会：平田知久（群馬大学）

1. 「気候変動」・「地球温暖化」の議論フレームと経時変化
—ツイッターにおける日本語投稿の分析から— 王婧琦 京都大学
2. 参加者の「視界」をデザインする
—オンライン「保育活動」における観察に注目して— ○若狭優 神戸大学
永田夏来 兵庫教育大学
3. 監視資本主義とプライバシー問題
—データ・ダブルの観点から— 蔵本紗知 南山大学
4. システム／生活世界図式の政治的隘路
—バック／ギデنزの政治理論の観点から— 崔昌幸 京都大学

3. 社会問題（1）

司会：妻木進吾（龍谷大学）

1. 部落問題に関する約半世紀間の意識の変容
—大阪府における同和・人権問題に関する意識調査から— 内田龍史 関西大学
2. 被差別部落からの転出とアイデンティティ 齋藤直子 大阪教育大学
3. 児童虐待の「要因」と「対応」言説の変容
—国会会議録の量的内容分析から— 相澤亨祐 京都大学
4. 情報社会における新政治経済学と承認論
—フランクフルト学派において— 稲葉年計 東京都立大学

4. 家族・人口

司会：戸江哲理（神戸女学院大学）

1. ライフコース上で生じる夫の転勤が妻の出生意欲に与える影響
—反事実モデルによる直接効果・間接効果の測定から— 藤野敦子 京都産業大学
2. 〈シェア居住〉言説においてケアはどのように語られてきたか
—90年代以降の雑誌記事分析から— 堀内翔平 京都大学
3. 日本の国民国家創出期において「創り出された伝統」
—苗字制度を中心に— 施君菲 京都大学
4. 養護施設言説にみる家族の言語
—1970年代を中心に— 野崎祐人 京都大学

5. 社会福祉・医療

司会：有蘭真代（龍谷大学）

1. 児童養護施設における日常生活の変容
—6年間のフィールドワークから—
三品拓人 日本学術振興会
2. 1991年のエイズ予防財団ポスターはいかに論じられたのか
—問題のフレームに着目して—
景山千愛 公益社団法人 国際経済労働研究所
3. 高齢者福祉の文化人類学的な一様相
—ハイリスクな家族心理の事例から—
前田益尚 近畿大学

◆自著を語る～MY FIRST BOOK～

司会：工藤保則（龍谷大学）

1. 『東アジアの紹介型国際結婚——グローバルな家族と越境する親密性』（明石書店 2021年）
郝洪芳 ミシガン大学・日本研究センター
2. 『『女工哀史』を再考する——失われた女性の声を求めて』（京都大学学術出版会 2020年）
サンドラ・シャール ストラスブール大学
3. 『建築家として生きる——職業としての建築家の社会学』（晃洋書房 2021年）
松村淳 関西学院大学

◆共催校（大会校）特別企画 15：45～17：15

テーマ「社会学を高校生にも2：実践編」

司会 山本晃輔（関西国際大学）
南畑淳史（関西国際大学）

発表（生徒＋教員）：大阪高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、愛知県立岡崎高等学校
コメンテーター：小川伸彦（奈良女子大学）、丹辺宣彦（名古屋大学）

◆総会 17：30～18：45

第2日 5月29日（日）

研究報告Ⅱ 5月29日 日曜日午前 9：30～12：00

6. 教育

司会：吉田崇（静岡大学）

1. 高校生の価値志向が性別専攻分離に与える影響に関する分析
増井恵理子 滋賀大学
2. メリトクラシー信念の規定要因とその変化
—ISSP Social Inequality モジュールを用いた実証分析—
遠藤優太 京都大学
3. 教育ミスマッチの収入・職業継続意欲への影響
園部香里 京都大学
4. 中小学生の学校外教育における新中間階層女性の母親業
—上海市と南京市の女性を対象に—
張紫萱 京都大学

7. 社会調査法

1. どのような場合に有意標本からの一般化は説得力を持つか
2. 「どちらともいえない」はどのように説明されるのか
—性役割意識における中間回答理由の内容分析—
3. 業務統計としての感染者数データとその解釈
—COVID-19 対策における「クラスター」の意味変容—

司会：尾嶋史章（同志社大学）

太郎丸博 京都大学

伊達平和 滋賀大学

田中重人 東北大学

8. 社会問題（2）

共同報告〈釜ヶ崎史料アーカイブの可能性〉

1. 調査史の方法としての写真記録と個人文書
—都市下層の視点から—
2. フィールドワーカーとカメラマン
—飯場の生活と労働の記録—
3. 寄せ場の運動史における植民地主義への問い
—1970年代・釜共闘の実践を中心として—

司会：小杉亮子（埼玉大学）

櫻田和也 大阪公立大学

渡辺拓也 社会理論・動態研究所

原口剛 神戸大学

9. エスニシティ・地域

1. ウリサラム（私たちの人々）と呼び合う村
—戦後京都マエブケの朝鮮人と民族団体—
2. エスニックマイノリティ内部における階層および地域的差異
—現代フランスのミドルクラスのムスリムは「郊外」をいかに語るか—
3. 中国における都市住民と農村住民間の生活格差の形成と実態
—湖南省のS市を事例に—

司会：山本かほり（愛知県立大学）

呉仲元 同志社大学

山下泰幸 京都大学

陳意 金沢大学

10. ジェンダー

1. 盛り場における女性像の考察
—女性バーテンダーを中心として—
2. ゲイ雑誌からみる男性同性愛者の身体の変遷
—変容する身体文化と権力配置—
3. 台湾の同性婚をめぐる社会衝突に関する考察
—社会的合意の達成可能性—
4. 「職業の女性化」を加速させるものは何か
—雇用形態と性別職域分離に注目して—

司会：織田暁子（仁愛大学）

張永芳 大阪公立大学

林正浩 京都大学

陳曉嘉 京都大学

LEE HANSOL 京都大学

11. 社会史・歴史社会学

1. 原水禁運動から平和教育、そして芸術・スポーツへ
—広島における原爆に関する行事の社会史—
2. 自衛隊におけるミリタリー・カルチャーを問うために
—自衛隊退職者の当事者性に着目して—
3. 被爆体験の記憶継承に関する考察
—広島少年合唱隊を事例として—
4. 愛情の歴史のための試論
—〈玄宗貴妃譚〉の分析—

司会：須藤遙子（東京都市大学）

渡壁晃 関西学院大学

津田壮章 京都大学

佐々木知子 京都大学

川田耕 京都先端科学大学

◆招待講演 13:00~14:00

「ケア／ジェンダー／民主主義」

講演者 岡野八代（同志社大学）

司会 岡崎宏樹（神戸学院大学）

◆シンポジウム 14:15~17:00

「ケアから社会を構想する——ポストコロナの社会理論」

司会 岡崎宏樹（神戸学院大学）

1. Caring Society——生を包摂する社会と社会科学

落合恵美子（京都大学）

2. Care as an Intersectional Lens to Analyze Socio-Economy

イト・ペング（トロント大学）

3. 「死にたさ」とともに生きる——コロナ禍の自殺とケア

山田陽子（大阪大学）

4. ニュージーランドにおけるパンデミックと福祉政策

千種キムラ・スティーブン
（早稲田大学ジェンダー研究所）

討論者 岡野八代（同志社大学）